

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 相模原市立相武台保育園

発効：平成23年3月24日（平成26年3月23日まで有効）

社団法人神奈川県社会福祉士会

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	サガミハラシリツ ソウブダイホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	相模原市立相武台保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0325 神奈川県相模原市南区新磯野2-39-11 小田急相武台前駅よりバス・グリーンパーク前下車徒歩10分
事業所電話番号	046-255-1149
事業所FAX番号	046-255-9920
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 加藤 篤子
法人名及び 法人代表者名	法人名 相模原市 法人代表者氏名 相模原市長 加山 俊夫
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8時30分～17時00分

事業所の概要1

開設年月日	昭和55年4月1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	第1種低層住居専用地域
建物構造	鉄筋コンクリート造り 一部2階建
面積	敷地面積(1,869.77)㎡ 延床面積(736.74)㎡

事業所の概要2 (職員の概要)

総職員数	名
うち、次の職種に該当する職員数	園長 (常勤 1名) 保育士 (常勤 18名:常勤以外14名) 調理員 (常勤 2名:常勤以外 4名) その他 (庁務 非常勤2名)

事業所の概要3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後8週目～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	有	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

意欲と思いやりのある子ども ・ 自分も相手も大切にしたい気持ちをもつ ・ 自分の力で行動する充実感を味わう ・ 地域のさまざまな人との関わりの中で経験豊かに育つ

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善を要する点）

優れている点・独自に取り組んでいる点：

- 相武台保育園の保育目標に、「意欲と思いやりのある子ども、①自分も相手も大切にす気持ちをもつ、②自分の力で行動する充実感を味わう、③地域のさまざまな人との関わりの中で経験豊かに育つ」を掲げ、保育に取り組んでいる。
- 職員間で連携をとり、子どもが自発的に遊びを選択できるオープン保育を行っている。オープン保育は、全保育士が子ども一人一人を把握した上で実施している。子ども達が、園庭及び保育室内のどちらにいても状態を把握できるように配慮している。
- ままごとやブロック、絵本などをいつでも手にして楽しむことができるように、保育室内にコーナーを設置している。コーナーは絵本を見るなどの静かな遊びのコーナーと、作品を作るなど動きのある遊びのコーナーに分けて設定している。
- 幼児クラスのランチルームは、オープン保育の中で、子ども達の自主性を育てることを目的として行っている。当番の子どもが準備できたことを知らせ、食事が終わった子どもが待っている子どもに声を掛けたりしている。食育ボードに、その日の給食で使われた食材の絵をマグネットで貼ったり、血や肉になるものなど3種類に区分けして貼るなどして、子ども達に知らせている。保護者へは食育コーナーで情報を提供している。
- 幼児クラスは月に1回、食育の日を設けている。食育の日はバイキング形式の食事を提供している。テーブルクロスを使い花を飾り、レストランのような雰囲気を作っている。童謡など馴染みのある曲を選んでBGMとして流したり、おたのしみボックスのくじ引きなども用意して、子ども達が楽しむことができるよう工夫している。
- 幼児クラスは当番活動をグループで行い、1週間毎に交代している。昼食時の机・椅子並べ、テーブル拭き、麦茶入れ、片付けのかご並べ、昼食の紹介などをグループ内で役割を分担して行っている。
- 0、1歳児は連絡帳で、2歳児からは連絡ボードで日々の活動の様子を伝えている。希望者には伝言ノートで家庭との情報交換を行っている。2歳児以上は「すくすくカード」で、3カ月毎に情報交換を行っている。また、幼児クラスは、早番の保育士が「おはよう先生」になり、子ども達や保護者全員と挨拶を交わしている。挨拶と同時に、その日の子ども達の様子を保護者から確認している。夕方には「かえる先生」が対応している。
- お散歩マップを作成し、散歩などの園外保育が安全に実施できるよう配慮している。散歩に出掛ける時には、行き先や参加する子どもの氏名と人数などを届け出ている。散歩先で危険箇所や配慮すべきことを発見した時には写真に撮り、お散歩マップに貼り付けて次に繋げている。
- 地域との交流を大切にして、若草中学校に年10回程度、高齢者施設「のどか」に年3～4回、青陵高校に年数回、もえぎ台小学校に年2回出掛けて交流している。私立相武台新日本保育園や私立新磯野保育園とは、子ども達が一緒に遊び、交流を深めている。
- 地域の子育て支援については、育児相談や園庭開放、育児サロンなどを行なっている。1歳児以上対象のサロンを保育園にて月2回、0歳児対象のサロンを相武台こどもセンターにて月1回実施している。また、相武台地域の親子を対象に、子育て支援事業の提供を行い、公立園、私立園との合同企画を年5回実施している。毎月の職員会議で実施状況を報告するとともに、職員全員が活動に参加し、地域支援の取り組みを園全体で担っている。

評価領域ごとの特記事項		
1	人権への配慮	<p>○園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「相武台保育園保育マニュアル」を定め、職員会議で園長から職員へ園児を尊重した名前の呼び方や接し方を周知している。</p> <p>○個人情報の保護、守秘義務については、市のパンフレット「情報公開・個人情報保護相模原市」や「相武台保育園保育マニュアル」に保育園での守秘義務及び個人情報の取り扱いの規程を明記している。マニュアル(注意、配慮文書)を、非常勤職員も含めて全職員へ配布し周知している。</p> <p>○児童相談所やこども家庭相談課と必要に応じてケース会議を行い、子どもの虐待予防や早期発見に努めている。虐待を行っていると思われる家庭に対しては、市のこども家庭支援班など関係機関と連携している。</p> <p>○実習生には担当の副園長から、オリエンテーション時にマニュアルに沿って、プライバシーの保護について説明している。体験学習、ボランティア、見学者については、それぞれの受け入れマニュアルに沿って、プライバシーの保護などの注意点を伝えている。</p>
2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	<p>○家庭との連絡・情報交換は、「相武台保育園保育マニュアル」で手段・方法を定め、送迎時の口頭連絡とともに、連絡ボードや写真で日々の活動の様子を伝えている。0、1歳児は連絡帳で、2歳児からは希望者に伝言ノートで情報交換を行っている。2歳児以上は「すくすくカード」で、3カ月毎に情報交換を行っている。</p> <p>○個人面談は年1回及び必要に応じて実施している。クラス懇談会はクラス毎に年2回実施し、保護者の意見・意向などを把握している。</p> <p>○玄関に「ご意見ボックス」を設置し、運動会とお楽しみ会で年2回行事アンケートを実施し、保護者の意向把握に努めている。受け付けた意見などは「意見等受付簿」に記し、速やかに副園長、園長に報告し、早急に対応している。</p> <p>○幼児クラスは早番の保育士が「おはよう先生」になり、子ども達や保護者全員と挨拶を交わしている。挨拶と同時に、その日の子ども達の様子を保護者から確認している。夕方は「かえる先生」が対応している。</p>
3	サービスマネジメントシステムの確立	<p>○苦情への対応は、「相模原市立保育所及び療育センターにおける苦情解決実施要綱」に手順を明記し、苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者委員名を、事務室前と2F 保育室前の目につきやすい場所に掲示して、保護者に周知している。受け付けた苦情は「意見等受付簿」に記し、「保護者等からの意見受付時の対応手順」に沿って、早急に対応している。</p> <p>○「相模原市立保育園園児健康管理マニュアル」で、室内の環境整備の方法を定め、「安全衛生チェックリスト」で危険物などの安全点検を行っている。</p> <p>○園児が触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場などの除菌・消毒、遊具の安全点検については、マニュアルに管理方法を定め、点検実行記録をつけて衛生面・安全面の管理を行っている。</p> <p>○相模原市保育課の「感染症対応マニュアル」を常備し、感染症の情報を玄関、情報コーナーに掲示している。「園だより」や「保健だより」でも、インフルエンザなどの情報を保護者に提供している。</p> <p>○防火・防災・防犯対策については、「相武台保育園消防計画」を作成し、定期的に避難訓練を実施する他、消防署との合同訓練を年1回、通報訓練を年3回実施している。保護者への引き渡し訓練や不審者訓練も行っている。</p>

4	地域との交流・連携	<p>○散歩に多く出掛け、歩く力を培い、周りの自然や出会う人に触れ、子ども達の興味・関心を広げるようにしている。</p> <p>○地域の子育て支援については、「相武台保育園保育マニュアル」に、地域子育て支援事業として、育児相談や園庭開放、育児サロンなどの支援を明記して実行している。1歳児以上対象のサロンを保育園にて月2回、0歳児対象のサロンを相武台こどもセンターにて月1回実施している。相武台地域の親子を対象に、子育て支援として、公立園、私立園との合同企画を年5回実施している。毎月の職員会議で実施状況を報告するとともに、職員全員が活動に参加し、地域支援の取り組みを園全体で行っている。</p> <p>○高齢者施設「のどか」に年3～4回、もえぎ台小学校に年2回、若草中学校に年10回弱、青陵高校に年数回出掛けて交流している。私立相武台新日本保育園や私立新磯野保育園とは、子ども達が一緒に遊び、交流を深めている。</p>
5	運営上の透明性の確保と継続性	<p>○年度末には、各クラスで保育の内容や行事の振り返りを行っている。内容は、職員会議で周知している。保護者による行事アンケートを参考にして改善を図っている。</p> <p>○保育園の理念や方針は、保護者や地域からの理解が得られるよう、玄関の掲示板に掲示している。</p> <p>○保護者に保育園での子ども達の様子をってもらう機会として、保育参観を実施している。「平成22年度相武台保育園行事予定」に、保育参観や保育参加を記載し、保護者へは入園説明会や懇談会を通して説明している。</p>
6	職員の資質向上促進	<p>○「相模原市立保育園保育マニュアル」や「相武台保育園保育マニュアル」に、保育の理念や保育目標を明記している。職員は職員会議や自主研修でマニュアルの読み合わせをして、理念や目標を再確認している。</p> <p>○研修計画は「保育所職員研修計画」に基づき、役職・勤続年数・担当などに配慮して、保育課で作成された研修計画により実施されている。園内研修は、自主研修係が中心となって計画を立て、実施している。</p> <p>○外部研修受講者は、職員会議で研修報告を行い、研修報告書を回覧して、全職員で内容を共有している。研修報告書は回覧するとともに、外部研修、自主研修ともに、いつでも閲覧できるよう事務室に置いている。</p>

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 80 事項） を通してのサービスの達成状況	100 %
---	--------------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①複数の保育士が協力し、個々の発達や個性を把握し、気持ちに寄り添うことで情緒の安定を図っている。 ②職員間で連携をとり、子どもが自発的に遊びを選択できるオープン保育を行っている。 ③不安定な時など一対一の時間を設け、スキンシップをとり気持ちを汲み取ることで安心して過ごせるようにしている。</p>	<p>①子どもの情緒の安定を図る関わりについては、オープン保育の中、全保育士が子ども一人一人を把握した上で保育していること、子ども達が園庭及び保育室内のどちらにいても状態を把握できるようにしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の子ども達の様子観察で確認した。 ②オープン保育の取り組みについては、全保育士が全園児を把握できるように、週1回幼児会議を開催していること、また月に2回乳児会議を開催していること、オープン保育では子ども達が自発的に遊びを選択できるよう関わっていることを、「保育日誌」や訪問調査時の子ども達の様子観察で確認した。 ③子どもとのスキンシップについては、子どもが不安定な時には、1対1でスキンシップを取り、だっこなどをして関わっていることを、「保育日誌」や訪問調査時の子ども達の様子観察で確認した。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①共に生活する中で、発達や個性の違いを認め合えるような援助をしている。 ②友達との関わりの中で自分の思いを伝え、相手の気持ちに気づけるようにし、思いやりの気持ちを育てている。 ③乳児交流保育を行い、保育士等や友達とふれあう中で意欲や信頼感を育てている。</p>	<p>①発達や個性の違いを認め合えるような関わりについては、日々の連携に加え、乳児会議・幼児会議の中で子ども達の発達や個性を確認し、職員が連携しながら保育していることを、「保育日誌」で確認した。 ②思いやりの気持ちを育む関わりについては、保育士が「とりたかったんだよね」、「そうだよね」、「くやしかったんだよね」と子どもの思いを代弁し、相手の気持ちに気付くことができるように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。 ③乳児交流保育については、体を動かす遊びと、製作など落ち着いてできる遊びを用意し、保育士との関わりや友達との関わりを広げていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①年長児は当番活動を通して協力することや人の役に立つことの喜びを感じている。 ②世代間交流を行う中で、様々な人と関わる楽しさを共有している。 ③近隣の私立園二園との交流を行い、共に活動することで喜び合えるようにしている。</p>	<p>①当番活動については、当番はグループで行っており、1週間毎に交代していること、昼食時の机・椅子並べ、テーブル拭き、麦茶入れ、片付けのかご並べ、昼食の紹介などをグループ内で分担して行っていることを、「保育日誌」や訪問調査時の当番活動の様子観察で確認した。 ②世代間交流については、介護老人保健施設「のどか」に年3～4回、もえぎ台小学校に年2回、若草中学校に年10回弱、青陵高校に年数回出かけて交流していることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③近隣の私立園二園との交流については、私立相武台新日本保育園、私立新磯野保育園との交流で、一緒に遊び交流を深めていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①絵本・歌・パネルシアター・手遊びを保育士等と行う中で、言葉のやりとりを楽しめるようにしている。 ②したいこと、してほしいこと等を言葉で表現できるよう応答的に関わり、言葉を交わす楽しさを味わえるようにしている。 ③親しみを持って日常の挨拶をしている。</p>	<p>①言葉のやりとりを楽しめるような取り組みについては、絵本や歌、パネルシアター、手遊びなど、様々な遊びを楽しむことができるようにしていることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ②言葉を交わす楽しさを味わえるような関わりについては、発語がなかなか見られない子どもに対して、「貸して欲しかったんだよね」、「貸してもらえなかったから悲しいね」と保育士が代弁し、子どもが言葉に出して言えるようつなげていること、気持ちを代弁していることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③幼児クラスの日常の挨拶については、早番の保育士が「おはよう先生」になり、子ども達や保護者全員と朝の挨拶を交わしていること、昨年より実施し、挨拶を交わすと同時に、その日の子ども達の様子を保護者から確認していること、「かえる先生(帰り)」も行っていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①「あいの会」(読み聞かせボランティア)で、想像力を育み、聞く姿勢を身につけている。 ②イメージを膨らませながら、言葉の豊かな感覚を身につけるような環境を整えている。 ③じっくりと話を聞き、子どもの気持ちを汲み取り代弁し言葉を添える中で気持ちが通じる心地よさを味わえるようにしている。</p>	<p>①「あいの会」の読み聞かせについては、5歳児を対象に行っていること、毎回2～3名が来園し活動していること、年間予定表で来園日は決まっていることを、「保育日誌」や「あいの会活動予定表」、写真で確認した。 ②言葉の豊かな感覚を身につける関わりについては、エプロンシアターを見たり、身体を動かしたりする中で、イメージを膨らませながら、言葉が豊かになっていくよう保育していることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③気持ちが通じる心地よさを味わえるような関わりについては、トイレトレーニング中の子どもが排泄ができた時に、「お母さんに(できたことを)言いたいね」と、本人の気持ちを汲み取り代弁したりしていること、子どもによって先に声を掛けたり、言葉が出るのを待ったりしていることを、「保育日誌」や訪問調査時の保育士の関わりの様子で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①描きたい時作りたい時に主体的にできる環境を整え、できたことを認め、飾ることで意欲を高めている。 ②様々な体験を通し、感動や発見に共感し楽しく表現できるようにしている。 ③歌を歌ったり、音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わう中で表現したい気持ちを育てている。</p>	<p>①子ども達が主体的に取り組める環境の設定については、ブロックなど作りたいときにいつでも取り組める環境を作っていること、出来上がった作品を飾り、喜びを感じられるようにしていることを、「保育日誌」や写真、子ども達の作品の展示で確認した。 ②様々な体験を通し、楽しく表現できるような関わりについては、ごっこ遊びの中で、子ども達の思いを受け止め、共感し楽しめるように関わっていることを、「保育日誌」で確認した。 ③子ども達が表現したい気持ちを育む関わりについては、7月の誕生会では、手袋の先に石がついているフィンガータップを用いていること、たとくと音が出て、おもちゃのチャチャチャ、幸せなら手をたたこうなどを歌っていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなと一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①身近な素材を用意し、やってみたい意欲を育てている。 ②共同制作、オペレッタ等友達と共通のイメージを持ち、いっしょに作り上げる充実感・達成感を味わえるようにしている。 ③生活の中で季節ごとに様々なものに触れ、素材を活かした遊びができるようにしている。</p>	<p>①身近な素材を使った遊びについては、段ボールや小石など、子ども達は身近な素材で、ごっこ遊びなどを行っていることを、「保育日誌」や写真、保育室内の様子観察で確認した。 ②共同制作については、泥んこ遊びや砂場で、子ども達が一緒になって山を作ったりして遊んでいること、オペレッタ(劇あそび)の準備も共同で行っていることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③季節を感じる遊びについては、オープン保育の中で、年齢を超えて、お互い刺激しあいながら創作したり遊んだりしていること、上の子や友達から刺激を受けていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①誕生会や水遊び、泥んこ、スライム、スキンシップ遊び等、五感の働きを豊かにする取り組みをしている。 ②年齢に合った体操、リトミック、手遊び等を行い楽しんでいる。 ③ハサミやのり等に興味を持ち、身近な物を使ったり、おりがみを折る等、製作活動を楽しめるようにしている。</p>	<p>①誕生会については、毎月、園全体で実施していることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ②体操、リトミック、手遊びについては、リトミックは週案の中に盛り込み、その時の状況で取り入れていること、リトミックについては、夏休みの中で自主的に学ぶ保育士もいることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③製作活動を楽しめるような取り組みについては、はさみ、のりを使えるようにしているが、子どもだけで取り出すことのないように、保育士に必ず声を掛けることにしていること、製作活動は異年齢の中で集まってやっていること、ルールが分かっていない3歳児に5歳児が教えながら行っていることを、「保育日誌」や写真、保育室内の子ども達の様子観察で確認した。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①興味に合わせて探索意欲を高めるように環境を整えている。 ②身近な自然に触れ、自然現象への興味、関心を持てるようにしている。 ③生物を飼育したり、植物を栽培し、その変化に気づき命を大切に育む気持ちを育てている。</p>	<p>①探索意欲を高める環境の設定については、最初は泥んこ遊びができない子どもも、友達を楽しむ様子を見て少しずつ泥んこに入ることができるようになっていることを、「保育日誌」や写真、訪問調査時の園庭の様子観察で確認した。 ②自然現象への興味や関心を持てるような取り組みについては、子ども達は虫が好きで、順番に網を持って追いかけていたりしていること、雪の日は保育士の促しで雪の感触を確かめたりしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③生物の飼育や植物の栽培については、子ども達はおたまじゃくしや沢ガニを飼育したり、ピーマンなどの野菜を育てていること、スナップエンドウの生長を観察しながら、進級した春に収穫できることを子ども達が楽しみにしていることを、「保育日誌」や写真、保育室内の生物の飼育で確認した。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①食材への親しみを深めるため栽培した野菜を給食で喜んで食べている。 ②食べたいタイミングでランチルームにいき、友達や保育士等と楽しく食べ、時間や量を調節し食べる意欲を育んでいる。 ③トイレを気持ちよく使えるよう環境を整え、繰り返し丁寧に関わり、排泄する意欲を促している。</p>	<p>①食材への親しみを深める取り組みについては、サツマイモを収穫し、クッキングを行っていること、クッキングは年長児のプログラムで年4回実施していること、年長児は自分達が収穫したものを他の園児が食べていることを誇りに感じていることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ②ランチルームについては、オープン保育の中で、自主性を育てることを目的として行っていること、当番の子どもが準備ができたことを知らせ、食事が終わった子が待っている子に声を掛けたりしていることを、「保育日誌」や「食育カリキュラム年間計画」、写真、訪問調査時のランチルームの様子観察で確認した。 ③トイレの環境整備については、トイレの雰囲気明るくし、壁やドアに絵を貼るなど工夫していることを、「保育日誌」や写真、トイレの状況で確認した。</p>
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>①子どもの意志を尊重し、見守ったり、声かけをしながら、自分でできたことの喜びを味わえるようにしている。 ②生活の流れを繰り返し丁寧に伝え、見通しを持って行動できるようにしている。 ③絵本や紙芝居を読んだり、食育ボードを用いて栄養への関心を持てるようにしている。</p>	<p>①子どもの意思を尊重する関わりについては、小さなことでも自分でできた時は、声掛けしたり誉めたりして、子ども自身ができた気持ちを大切に、意欲を引き出すようにしていることを、「保育日誌」や写真、訪問調査時の子ども達の着替えの様子観察で確認した。 ②生活の流れを伝える保育士の関わりについては、身の回りのことを自分でできるように、幼児は道具箱の整理などをするようにしていること、一人一人に声掛けして自分から片付けられることを大切にしていることを、「保育日誌」で確認した。 ③食育の取り組みについて幼児クラスは、その日の給食で使われる食材の絵をマグネットで貼ったり、血や肉になるものなど3種類に区分けして貼るなど、子ども達に分かりやすいように工夫していることを、「保育日誌」や食育ボードの内容で確認した。</p>

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①ままごとやブロック、絵本等をいつでも手にして楽しむことができるようにしている。 ②老人施設「のどか」との交流の中で、身近な人に関心を持ち、接し方を知り、思いやりの気持ちを育てている。 ③散歩に出かけ歩く力を培い、周りの自然や出会う人に触れ、子ども達の興味関心を広げている。</p>	<p>①ままごとやブロック、絵本については、コーナーは絵本を見るなど静かな遊びのコーナーと、作品を作るなど動きのある遊びのコーナーに分けて設定していることを、「保育日誌」や写真、保育室内のコーナーの様子観察で確認した。 ②地域との交流については、介護老人保健施設「のどか」に、年間計画を立て、5歳児が年3～4回訪問して交流していること、高齢者施設以外にも、若草中学校、青陵高校、もえぎ台小学校、近隣の保育園との交流を行っていることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③散歩などの園外活動については、散歩は道路の外側を年長児が歩き、小さい子は内側で守りながら歩くなど、職員も注意しながら出かけていることを、「保育日誌」や写真で確認した。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①障がい児については個別カリキュラムを作成し、個々に合わせた対応を行っている。 ②長時間保育は家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、保育士等と関わりながら乳幼児がともに過ごしている。 ③乳児は個々に合わせ少人数で過ごす工夫をし、安全に配慮しながら保育をしている。</p>	<p>①障がい児保育については、障がいを持つ子どもも他の園児と一緒に活動していること、他の園児の影響を受け活動的になっていること、陽光園の職員に来てもらい、療育相談として助言を受けていることを、「個別指導計画」や写真で確認した。 ②長時間保育については、延長保育では、0～5歳児と一緒に過ごしていること、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で保育していることを、「延長保育日誌」や写真で確認した。 ③乳児保育では水遊びが苦手な子どもに対して、職員が1対1で関わり、少しずつ対応することにより、自分で水着に着替えて水遊びができるようになったことを、「保育日誌」や「児童の記録」、写真、訪問調査時の乳児クラスの様子観察で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>①アレルギー食は医師の診断のもとで行い、個人用トレーを使用し、席を決め、複眼で確認をし、保育士が側について食べている。 ②体調不良時には個々に合わせた食事を用意し、トレーに乗せて食べている。 ③離乳食は家庭と連絡を取り合いながら個々の状態に合わせて進めている。</p>	<p>①アレルギーのある子2名については、食事の席を決めていること、事故がないように複数の保育士で内容を確認していること、保護者が献立表にチェックした内容を読み上げて確認していることを、「診断書」や「除去食申請書」、写真で確認した。 ②体調不良時の対応については、体調不良時の食事はトレイに名札をのせてセットしていること、食事の場面では保育士が見守っていることを、「保育日誌」や訪問調査時の給食の様子観察で確認した。 ③離乳食の取り組みについては、保護者に確認し、連携して離乳食の対応を個別に行っていることを、「離乳食献立予定表」で確認した。</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①食育コーナーで、食育についての情報を掲示し、保護者へ提供している。 ②毎月食育の日を設け楽しく食事ができるようバイキング形式で食事をしている。 ③給食室との話し合いを持ち、食育についてや、各年齢の給食の状況を毎月話し合っている。</p>	<p>①食育コーナーでの情報の掲示については、食育ボードが子ども達への情報提供であるのに対し、食育コーナーは保護者への情報提供の場としていること、献立カードを自由にとれるように工夫していることを、訪問調査時の食育コーナーの内容や献立カードで確認した。 ②幼児クラスは、食育の日にバイキング形式の食事を提供していること、テーブルクロスを使い花を飾り、レストランのような雰囲気を作っていること、童謡など馴染みのある曲を選んでBGMとして流していること、おたのしみボックスのくじ引きも用意していることを、「保育日誌」や写真で確認した。 ③給食室との話し合いについては、給食室とは常に連携を取っていること、話し合いを持ち、希望を伝えていることを、「給食会議」の記録や写真で確認した。</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①お願い事項は確実に連絡できるよう掲示をし、同じ内容のメモを用意し、希望者は持ち帰れるようにしている。</p> <p>②日々の活動の様子を写真に撮り掲示することで子どもの姿をわかりやすく保護者に伝えている。</p> <p>③懇談会、個人面談、育児相談を行ない、家庭とのコミュニケーションを取っている。</p>	<p>①連絡事項の掲示などについては、特に担当は決めず、それぞれの保育士が工夫して掲示していること、文面については園長が事前に確認していることを、訪問調査時の掲示物で確認した。</p> <p>②日々の活動の様子を伝える取り組みについては、写真を掲示して見てもらったり、懇談会でプロジェクターで写していることを、訪問調査時の写真の掲示で確認した。</p> <p>③懇談会、個人面談、育児相談については、懇談会の内容をまとめ、参加できなかった保護者にクラスだよりで伝えていること、懇談会以外でも、保護者の方に安心してもらえるように、保護者とのコミュニケーションを大切にしていること、早朝、居残り、延長保育時には「おはよう先生」、「かえる先生」が子ども達の様子を伝え、保護者とコミュニケーションをとっていることを、「懇談会のお知らせ」や「保育日誌」、「個人面談記録」、「育児相談票」で確認した。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>①園児と地域との交流の場を提供している。</p> <p>②他機関や他の公私立保育園と合同サロンを実施し地域の育児力を高めている。</p> <p>③地域担当職員だけでなく全職員で地域子育て支援を行っている。</p>	<p>①地域との交流については、「わくわくルーム」を開催し、地域の家族と園児との交流を図っていることを、「地域交流のご案内」や「地域子育て支援事業等報告書」などで確認した。</p> <p>②合同サロンの実施については、のんびりひろばとして、近隣の私立保育園3園と合同のサロンを行っていること、ほのぼのひろばとして、近隣の公立保育園3園と合同のサロンを行っていることを、「のんびりひろば」の記録や「ほのぼのひろば」の記録などで確認した。</p> <p>③全職員での地域子育て支援については、地域担当職員だけでなく、年度の後半は、全職員が業務として子育て広場事業に交代で関わっていることを、「地域子育て支援事業等報告書」で確認した。</p>